

高幡地域アクションプランの進捗状況等について

高 幡 地 域 本 部

令和3年9月21日（火）

高幡地域アクションプランの進捗状況等

R3.9.21

高幡地域本部

1 地域アクションプランの令和3年度上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全41項目の地域アクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種アドバイザーを派遣するなど個別事業に応じた支援制度の活用により、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいる。

令和3年度は引き続き新型コロナウイルスの感染拡大によるイベントの中止や地域の観光施設・宿泊施設等への入込客数の大幅な減少、飲食店等店舗の一時休業・営業活動の停止など、幅広い分野で影響が出ている。依然として、先行きが見通せない状況にあるが、新しい生活様式や社会・経済構造の変化に対応するための新たな取り組みや県市町村の独自の支援策を活用した取り組みなど、地域経済回復に向けた動きも見られている。

農業分野では、須崎市、中土佐町、津野町で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用システム、優良種茎の安定供給体制を構築するとともに、認知度向上に向けた取組を推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指している。

また、四万十町においては、四万十栗のブランド化と関連産業を含めた地域産業クラスターの形成を図るため、令和3年5月に新たに整備した加工施設で栗や芋等を利用したスイーツの量産体制が整った。

畜産分野では、四万十町において、地域の生産者が四万十ポークブランド推進協議会を設立し、安心・安全な豚肉を安定的に提供できる体制を再構築し、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す取り組みを進めている。

また、梶原町では、梶原町雉生産組合の会員が1人まで減少したことから、集落活動センター四万川が同組合から事業承継を受ける予定としており、事業化に向けた取り組みを進めている。

林業分野では、経営コンサルタントの助言を得ながら、平成29年度に整備した四万十ヒノキ展示・商談施設を活用したヒノキ集材工場の販売力強化や新商品の開発に取り組んでいる。

水産業分野では、須崎市において、養殖マダイの生産者グループと民間事業者、漁協が連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷事業者の販売戦略に左右されにくい販売力の構築に取り組んでいる。

商工業分野では、中土佐町において、地産外商に取り組む町内のグループや事業者等で構成する協議会を設立し、お互いの強みを生かしながら中土佐町全体のブランド力を強化する地産外商に向けた取り組みを進めている。

観光分野では、津野町においては、ツリーアスレチックやジップラインを備えた、大人から子どもまで楽しめる施設として、「フォレストアドベンチャー高知」を整備し、今年度から本格的に運営を開始している。また、四国カルストエリア一帯をブランド化し、津野町全体の活性化を図るため、天狗荘を「星ふるヴィレッジTENGU」に、せいらんの里を「遊山四万十せいらんの里」にそれぞれリニューアルし、交流人口の拡大と町内への周遊を促す取り組みなどを進めている。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.1 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト(須崎市・中土佐町・津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・JA土佐くろしお</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・中土佐町 ・津野町 ・(株)E-システム 	<p>[指標]</p> <p>(1) 新規雇用者数(累計)</p> <p>出発点(R元)：－</p> <p>直近値(R2)：0名</p> <p>到達目標(R3)：1名</p> <p>目標(R5)：4名</p> <p>(2) ミョウガを使ったメニューの定番化(累計)</p> <p>出発点(R元)：0品</p> <p>直近値(R2)：0品</p> <p>到達目標(R3)：2品</p> <p>目標(R5)：4品</p> <p>(3) ミョウガ生産拡大面積(土佐くろしお)</p> <p>出発点(R元)：－</p> <p>直近値(R2)：45a</p> <p>到達目標(R3)：55a</p> <p>目標(R5)：200a(累計)</p> <p>(4) ミョウガ出荷量※園芸年度9～8月</p> <p>出発点(R元)：3,614t</p> <p>直近値(R2)：3,620t</p> <p>到達目標(R3)：3,680t</p> <p>目標(R5)：3,800t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 新規雇用者数(累計)(R3.6月末)：1名 (対前年同期比：100%)</p> <p>(2) ミョウガを使ったメニューの定番化(累計) (R3.6月末)：0品目 (対前年同期比：－)</p> <p>(3) ミョウガ生産拡大面積(R3.6月末)：0a (対前年同期比：－)</p> <p>(4) ミョウガ出荷量(R3.6月末)：2,269t ※園芸年度9～8月 (対前年同期比：104%)</p> <p>※講習会による栽培指導や、花蕾腐敗対策の啓発により、出荷量は順調に伸びている。</p> <p>○ミョウガの生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストックヤード建設事業交付申請済み、7月13日入札 ・強い農業・担い手作り総合支援交付金を活用したハウス

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>整備 (3戸、46a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次園芸年度面積調査の実施 (49a増 (ハウス整備事業を含む)) ・県事業 (環境制御高度化事業) を活用した環境制御装置整備 (17戸採択) <p>○ミョウガの販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知県とともに販促用ミョウガパンフレットを作成し、県内外消費宣伝で活用中 ・関東圏テレビ番組でミョウガPR(5/21テレビ東京) ・JA高知県とともに「高知のミョウガを知って5000円をGETしよう！」キャンペーンを実施 (6/1~8/31) ・ミョウガの切り下を利用した加工用向け規格を試験販売 (7/10~) ・とさっこ広場でミョウガ料理を検討 (ミョウガちらし寿司、巻き寿司) (7月) <p>○ミョウガの収量・品質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐くろしお管内連絡協議会で一次・二・三次WGの年間計画について共有 (5/24) ・講習会開催による栽培指導 (計13回、199人) ・ミョウガ炭酸ガス施用効果の試験圃調査 (3回、8人) ・水質調査の実施 (21カ所 水質悪化原因を把握) ・花蕾腐敗対策試験の実施 (優良腐敗対策について効果検討中) ・個別巡回による循環型養液システムの推進 (9戸導入意向を確認) ・花蕾腐敗対策の啓発 (目慣らし会9回、201人) <p>【課題と今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミョウガの販売促進 <p>⇒関係組織と連携し、ホームページ等で情報発信していく。</p>
<p>■No.3 梶原町産キジ肉の生産・販売の拡大 (梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・梶原町雉生産組合 ・梶原町</p>	<p>[指標]</p> <p>販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1,458万円</p> <p>直近値 (R2) : 1,429万円</p> <p>到達目標 (R3) : 1,600万円</p> <p>目標 (R5) : 2,200万円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <p>販売額 (R3.6月末) : 137.8万円 (対前年同期比 : 160%)</p> <p>※R2は新型コロナの影響により飲食店向けの業務需要が落ち込んでいたが、ネットでの注文等が増加したため</p> <p>○品質の向上と出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟成肉の販売 (R3.6月末) : 32,450円 <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町内の飲食店が1店舗増加 ・電話やFAXによる営業を強化 ・SNSでの情報発信 <p>○事業承継による梶原町産キジ肉の生産・加工・販売継続への取り組み開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売戦略・事業計画策定の産業振興アドバイザー (課題解決型) を活用し支援 : (R3.7~) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の見直し (事業承継による運営母体の強化) ⇒生産者の高齢化等により、梶原町雉生産組合を解散し、集落活動センター四万川に事業を承継する ・衛生管理の高度化 (県版HACCP認証取得) への取り組み ⇒産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した新たな施設 (加工場) の整備 : R4 (予定) ・認知度向上 ⇒他地域 (いの町、愛媛県鬼北町) と連携したイベント等の企画及びいの町と連携した「高知のキジ」の認知度向上のための戦略策定 ⇒特産品オンラインショップ「雲の上ストア」でのキジ肉セット販売強化 ⇒集落活動センターゆすはら西の推進するゆすはらジビエと連携した販促活動を実施
<p>■No.4 梶原町産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化 (梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)津野山畜産公社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1.3億円</p> <p>直近値 (R2) : 0.85億円</p> <p>到達目標 (R3) : 1.6億円</p> <p>目標 (R5) : 1.9億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(2) 出荷頭数 出発点 (H30) : 92頭 直近値 (R2) : 113頭 到達目標 (R3) : 166頭 目標 (R5) : 186頭</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 販売額 (R3.6月末) : 2,482万円 (対前年同期比 : 131%) ※昨年度に比べて販売単価が高値のため</p> <p>(2) 出荷頭数 (R3.6月末) 26頭 (対前年同期比 : 96.3%)</p> <p>○組織体制の強化 ・4月から1名増 (2名雇用うち1名は退職補充) ・中山間複合経営拠点施設となり、他事業 (土づくりセンター管理業務) にも着手</p> <p>○飼育頭数の増加 ・出産頭数が計画より増加</p> <p>○梶原町産牛肉の認知度向上 ・学校給食における和牛中心のメニュー提供の計画 ・インターンシップ事業 (新規就農者が就農体験を行う研修制度) 実施 (5月~11月)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・津野山畜産公社の頭数及び経営管理 ⇒中山間ルネッサンス事業により派遣される経営コンサルタントに指導を受けながら、畜産公社・町等による経営会議を開催、毎月の飼育頭数及び経営状況を確認している。</p>
<p>No.5 つの茶販売戦略 (津野町)</p> <p>《実施主体》 ◎・JA高知県 (高西地区) ・津野町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 茶製品販売額 出発点 (H30) : 3,200万円 直近値 (R2) : 1,274万円 到達目標 (R3) : 2,800万円 目標 (R5) : 4,000万円</p> <p>(2) 荒茶販売額 出発点 (H30) : 4,039万円 直近値 (R2) : 2,524万円 到達目標 (R3) : 4,559万円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>目標 (R5) : 5,000万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 茶製品販売額(R3.6月末) : 409万円(対前年同期比 : 66.0%) ※精算の遅れにより、まだ売上に計上できていない分があるため。</p> <p>(2) 荒茶販売額(R3.6月末) : 2,862万円(対前年同期比 : 113.4%) ※R2が霜害により大幅減となっていたが、R3はR2より霜害被害が少なかった。</p> <p>○販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新茶まつり開催 (5/1、5/8 J Aファーマーズマーケットとさのさと、5/2~4道の駅布施ヶ坂) ・かぶせ茶パウダースティックを使った新商品のデザインの磨き上げ。 ・有機茶の販路拡大のため(株) 天空四万十がスウェーデンの企業とZOOMによる商談を実施 (6/3) ・せいらの里リニューアルに向け、茶器の選定やつの茶を使ったメニュー開発。 ・キリンビール(株) 高知支店×津野町「オンラインで乾杯！」イベントの開催 (7/10) <p>○品質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶農家への適時摘栽の指導 ・茶工場のGAP(生産工程管理)の遵守と農家指導 ・クリーンルームのHACCP遵守 <p>○生産の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放棄茶園の調査 ・放棄茶園の整備 ・キリンビール(株) 高知支店と協働の茶縁事業を継続 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる茶製品の外商機会の減少 ⇒町内観光施設、道の駅等での販売強化、SNS、マスコミ等によるPR強化 ・茶製品販売体制の強化 ⇒産業振興アドバイザー(課題解決型)からの指導・助言等をもとに、つの茶販売戦略計画の改定

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト (四万十町)</p> <p>《《実施主体》》</p> <p>◎・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)無手無冠 ・清流栗庵 	<p>[指標]</p> <p>JA栗集荷量 (西土佐・大正・十和)</p> <p>出発点 (R元) : 26t</p> <p>直近値 (R2) : 29.2t</p> <p>到達目標 (R3) : 38t</p> <p>目標 (R5) : 50t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>JA栗集荷量 (R3.7月末) : 0t (対前年同期比 : ー)</p> <p>※栗の収穫時期が9月～10月のため</p> <p>○生産量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せんだい講習会 (R3.7月末) : 1回 ・現地ほ場巡回 (R3.7月末) : 2回 ・新改植の推進 (R3.7月末) : 3回 ・特選栗検討会 (R3.7月末) : 3回 <p>○施設機械整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した四万十ドラマ新加工工場落成式 : 5/15 <p>○商品開発、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 : 7品 (しまんとDrops、あうんアールグレイ、焼きいもモンブランなど) ・あうんアールグレイ記者発表 : 7/7 ・しまんと栗ビール : 8/13 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗出荷量の増加 ⇒低樹高栽培に向けたせんだい技術の普及、平地への新植推進 ・製造過程の一部機械化による原価低減および利益増加 ⇒製造数量や工程を見直し、販売方法や売り先ごとの製造アイテム分類及びターゲットの明確化
<p>■No.7 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町)</p> <p>《《実施主体》》</p> <p>◎・四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ハマヤ 	<p>[指標]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高</p> <p>出発点 (H30) : 8,525万円</p> <p>直近値 (R2) : 1億1,628万円</p> <p>到達目標 (R3) : 9,500万円</p> <p>目標 (R5) : 1.2億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数 出発点 (H28～R元累計) : 9人 直近値 (R2) : 7人 到達目標 (R3) : 9人 目標 (R2～R5累計) : 12人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高 (R3.7月末) : 2,765万円 (対前年同期比 : 108%)</p> <p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数(R3.7月末) : 7人</p> <p>○こだわり野菜の生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行支援チーム会 (R3.7月末) : 4回 ・有機現地検討会 (R3.7月末) : 1回 <p>○6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次化セミナーアップグレードコース受講(R3.7月末) : 1回 ・産業振興アドバイザー(課題解決型)を活用した四万十町産有機生姜の高付加価値商品化(4月～9月 5回実施) ・HACCP研修受講 (R3.7月末) : 3回 ・食品表示研修 (R3.7月末) : 1回 <p>○外商活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談活動 (R3.7月末) : 1回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物の生産拡大 ⇒栽培技術向上への支援 ・6次産業化の推進 ⇒各種研修の受講支援、アドバイザーの活用支援
<p>■No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十ポークブランド推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(農)平野協同畜産 ・(有)渡辺畜産 ・山中畜産 ・(農)四国デュロックファーム 	<p>[指標]</p> <p>(1) (農)四国デュロックファーム 加工品売上高 出発点 (H30) : 9,202万円 直近値 (R2) : 1億1,547万円 到達目標 (R3) : 1,1億円 目標 (R5) : 1,2億円</p> <p>(2) (農)平野協同畜産 母豚数 出発点 (H30) : 477頭 直近値 (R2) : 465頭</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>到達目標 (R3) : 500頭 目標 (R5) : 500頭</p> <p>(3) (農)平野協同畜産 出荷頭数 出発点 (H30) : 9,693頭 直近値 (R2) : 10,724頭 到達目標 (R3) : 11,000頭 目標 (R5) : 11,000頭</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) (農)四国デュロックファーム加工品売上高 (R3.6月末) : 1,855万円 (対前年同期比 : 89.9%)</p> <p>(2) (農)平野協同畜産 母豚数 (R3.5月末) : 475頭(対前年同期比 : 97.8%)</p> <p>(3) (農)平野協同畜産 出荷頭数(R3.5月末) : 1,723頭(対前年同期比 : 106.2%)</p> <p>○四万十ポークブランド推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ポークブランド推進協議会総会(8/4) ・ブランド化に関する協議(8/4) ・四万十ポークホームページ作成打合せ(8/4) <p>○(農)四国デュロックファーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会等 : 3回 (4月~7月) ・商品開発 : セブンイレブンとの共同開発 「四万十ポークおむすび」西日本・四国で期間限定発売 (4/21~5/12) ・増頭のための施設整備 →繁殖豚舎等4棟(国畜産クラスター事業:7月内示) ・生産性向上のための衛生対策 <p>○(農)平野協同畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜保健衛生所とのチーム会 (4,6月に開催) ・生産性向上のための衛生対策 <p>○(有)渡辺畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増頭のための施設整備 →畜舎移転予定地の造成中(R3) →国畜産クラスター事業による施設整備 (R4予定) ・生産性向上のための衛生対策 <p>○山中畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臭気対策資材投入→臭気削減効果(臭気測定 : 6/8) ・生産性向上のための衛生対策

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(農)四国デュロックファーム <ul style="list-style-type: none"> ・加工・直販所の販売額の増加 ⇒イベントへの出店や営業活動等による販路の拡大及び顧客の確保 ・出荷頭数増に向けた施設整備 ⇒R4以降の整備計画策定 ○(農)平野協同畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数の増加 ⇒衛生管理と生産体制のさらなる向上 ○山中畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・環境対策後の地域住民への理解醸成 ⇒環境対策事業の実施と効果検証 ○(有)渡辺畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数増に向けた施設整備 ⇒R4 年度畜産クラスター事業への申請資料作成
<p>■No. 14 津野町森林・林業再生プロジェクト (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)中成 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>山元貯木場木材取扱量</p> <p>出発点 (H30) : 25,358m³</p> <p>直近値 (R2) : 19,049m³</p> <p>到達目標 (R3) : 28,000m³</p> <p>目標 (R5) : 30,000m³</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>○山元貯木場木材取扱量 (R3.6月末) :</p> <p style="text-align: right;">6,561m³ (対前年同期比 : 113%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山元貯木場木材取扱量については、昨年度はコロナ禍により例年に比べて取扱量が減少していたことや、津野町森林組合が国有林の間伐事業を受託していることから、上半期の対前年比が増加する見込み。 <p>○チップの安定供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チップ生産量 (R3.6月末) : <p style="text-align: right;">4,650 t (対前年同期比 : 110%)</p> ・製紙用、バイオマス発電用共には安定して出荷ができている。(上半期は、昨年より1割程度増加する見込み) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自伐林家への木材出荷の促進 ⇒ウッドショックによる高値が長期的な原木価格として安定するか先行きは不透明であるが、価格情報や有利

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>な採材方法を組合員や自伐林家に提供し出材を促していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス発電等への安定供給 <p>⇒大規模バイオマス発電用等燃料用需要への安定供給を継続して実施。</p>
<p>■No. 15 浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大(須崎市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐鯛工房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)小島水産 ・乙女会 ・(株)大東冷蔵 ・高知県漁協深浦支所 	<p>[指標]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数</p> <p>出発点 (H30) : 6.6万尾</p> <p>直近値 (R2) : 3.9万尾</p> <p>到達目標 (R3) : 8万尾</p> <p>目標 (R5) : 10万尾</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数</p> <p>出発点 (H30) : 20.3万尾</p> <p>直近値 (R2) : 17.0万尾</p> <p>到達目標 (R3) : 25.0万尾</p> <p>目標 (R5) : 30万尾</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数 (R3.6月末) :</p> <p>8,980尾 (対前年同期比 : 101%)</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数 (R3.6月末) :</p> <p>25,849尾 (対前年同期比 : 77%)</p> <p>※コロナにより飲食店等が休業したことによる外食需要の低迷が継続中</p> <p>○海援鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋で開催された商談会への参加 ・生産者の増加 (長期研修生の独立1名が、R3.2独立) <p>○乙女鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金 (一般事業・特別分) を活用し、需要が増加している加工品の増産を目的とした加工施設の拡張に着手 (R3.5着工) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより飲食店等が休業したことから、外食需要の減少が続いており、出荷尾数及び単価が下落 <p>⇒早期の取引再開及び新たな販路の拡大に向け、開催される商談会等へ参加を予定</p> <p>需要が増加している加工品の増産を目的とした、加工施設の拡張工事 (R3.10完成予定)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 16 アメゴ養殖事業の再生拡大(梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・集落活動センターおちめん</p> <p>・梶原町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 売上高</p> <p>出発点 (R元) : 0万円</p> <p>直近値 (R2) : 0万円</p> <p>到達目標 (R3) : 0万円</p> <p>目標 (R5) : 400万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>売上高 : 0万円(対前年度同期比: -)</p> <p>○生産体制の確立・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アメゴ養殖事業部会」設立(4月) ・「アメゴ養殖事業部会」において、事業計画等の検討(R3.6月末)2回開催 ・生産拡大のための既設設備の改修 <p>○担い手の確保・伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手の確保(R3.4月~1名)現事業者の元で養殖事業の研修開始 <p>○販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵等の販売について先進地視察:仁淀川町名野川(R3.7月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手による研修及びサポート体制の確立 ⇒孵化作業練習用稚魚の飼育 ・新規設備の検討 ⇒規模・池数や配置等の検討及び可能な範囲での施行実施 ・既存施設の改修 ⇒給水管等の取替工事の実施(11月~)
<p>■No. 17 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大(須崎市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>・(株)アースエイド</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 5,418万円</p> <p>直近値 (R2) : 1億3,539万円</p> <p>到達目標 (R3) : 7,000万円</p> <p>目標 (R5) : 8,000万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R3.6月末) : 851万円(対前年同期比 : 117.4%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○商品の高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉にんにく玉を活用した商品開発（1品検討中） ・機能性表示にかかる専門家への相談（7月） <p>○農作業効率化に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産現場での効率化対象業務の検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規顧客のリピーター化 ⇒市場そのものが大きくないこと、様々な商品が出ていること等から、より効果的な魅せ方ができるよう専門家の助言を基に、差別化等の検討を行う。 ・販路拡大に向けた検討 ⇒ふるさと納税に力を入れる須崎市と協力しつつ、販売方法等の検討を行っていく。
<p>■No. 19 大正町市場商店街活性化事業 （中土佐町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・大正町市場組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町商工会 ・中土佐町 	<p>[指標]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数</p> <p>出発点（R元）：1店舗（H29～R元累計）</p> <p>直近値（R2）：1店舗</p> <p>到達目標（R3）：1店舗</p> <p>目標（R5）：2店舗（R2～5累計）</p> <p>[取組状況]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数（R3. 6月末） ：0店舗</p> <p>○中土佐町中心商店街等振興協議会における協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町中心商店街等振興計画 事務局協議（4月） ・キャッシュレスに関するセミナーを開催予定（11月） ・久礼お宮さん通り商店街組合定例会（4月～6月 3回） ・商店街のコロナ対策（4月～） ・「春の門前市」開催（4/18） ・地域おこし協力隊募集（4月～） 6月 面談1名 9月 地域おこし協力隊着任予定 <p>○チャレンジショップ事業による空き店舗対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ出店者の募集（4月～） ・SNS等での周知活動（4月～）

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対応 ⇒商店街のコロナ対策の徹底 ・チャレンジショップ出店者の確保 ⇒チャレンジショップ出店者の募集、住居確保
<p>■No. 20 中土佐町SEAプロジェクト (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)SEAプロジェクト ・中土佐町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 年間売上額 (施設全体) 出発点 (H30) : 2.8億円 直近値 (R2) : 2.3億円 到達目標 (R3) : 3.9億円 目標 (R5) : 3.9億円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 年間売上額 (R3.8月末) : 1.0億円 (対前年同期比 : 131%) ※R2年度はコロナの影響が大きかったため (対R元年同期比 : 94%)</p> <p>○賑わい創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部運営協議 (5月 2回) ・ECサイト出品する出荷者調整 (4月～ 2件) ・マルシェなかとさ出品登録者訪問 (4件) ・食品衛生法の改正内容に関する研修 (4月) 風工房 2名出席 ・れんけいこうち イオンモール出店 (6月) 出店 : 風工房 ・JR四国おもてなし観光列車 (4月～) 久礼駅での物販販売 ・新商品販売 (4月～) なかとさ苺ビール ・アドバイザー導入意向ヒアリング (4月～5月 3店舗) 風工房 : 6次産業化セミナー実践コース受講 <p>○周辺施設との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町中心商店街等振興計画 事務局協議 (4月) ・スプリングフェア実施 (4/1～4/30) 黒潮本陣との連携企画実施 <p>○地産外商の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の地産外商に関する関係機関協議 (4月～6月 4回) ・なかとさdo外商連絡協議会 (4月) ・四国経済産業局との意見交換 (6月) ・地域ブランド研究会セミナー (6月 2回)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マルシェなかとさ（直販施設）への商品の安定供給 ⇒出荷者訪問、新規出荷者の掘り起こしを行いながら、品揃えの充実を図る。 ・ 地域外からの利用客の減少 ⇒新型コロナウイルス感染症の対策の徹底と、状況に合わせた店舗運営やSNS等での情報発信、道の駅なかとさ全体のイベントの企画・立案に関して各テナントとの連携を図り、協力体制を強化していく。 ⇒産振アドバイザーを活用してマルシェなかとさの課題整理をしていく。
<p>■No. 22 中土佐町地産外商の取り組み (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・中土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)SEAプロジェクト ・企画・ど久礼もん企業組合 ・中土佐町商工会 	<p>[指標]</p> <p>(1) 商品開発 品目数 出発点 (R元) : - 直近値 (R2) : - 到達目標 (R3) : 3商品 目標 (R5) : 10商品</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 商品開発 品目数 (R3.6月末) : 0 (対前年同期比 : -)</p> <p>○地産外商に向けた体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なかとさdo外農事務局打合せ (4月、6月 3回) ・ なかとさdo外農連絡協議会の開催 (4月) <p>○地産外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品開発に取り組む事業者 2事業者 (7月～) 2事業者 (6次産業化セミナー実践コース受講) ・ 地域おこし協力隊着任 (5/1) 地域ブランド研究会インスタグラム開設 12件投稿、フォロワー442人 (7/30時点) 地域ブランド研究会HPの更新 ・ れんけいこうち イオンモール出店 (6月、8月) 6/19～20 風工房 8/14～15 風工房、8/14 マルシェなかとさ ・ バイヤー招聘と外商支援 ポルシェ企画シェフ (東京) 招聘 (7月) ポルシェ企画フェア実施予定 (新規市場開拓支援事業関連 : 9月)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランド研究会セミナー（6月～7月） 4回（インスタグラム、YouTube活用など） 延べ34人 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかとさdo外商連絡協議会の今後のあり方 ⇒アドバイザー制度活用によるブランド力強化 ⇒新商品開発や情報発信など個別課題への対応
<p>■No. 24 津野町地産地消・外商販売戦略 （津野町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(有)津野町ふるさとセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)満天の星 ・(一財)天狗荘 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>(1)直販所総販売額 出発点（H30）：1.36億円 直近値（R2）：1.42億円 到達目標（R3）：1.38億円 目標（R5）：1.40億円</p> <p>(2)(株)満天の星売上 出発点（H30）：2.07億円 直近値（R2）：1.79億円 到達目標（R3）：2.16億円 目標（R5）：2.49億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)直販所総販売額（R3.6月末）： 0.32億円（対前年同期比：97.8%）</p> <p>(2)(株)満天の星売上（R2.10～R3.6月末）： 1.27億円（対前年同期比：80.6%）</p> <p>○津野町製品の販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化サポートセンターによる道の駅布施ヶ坂・風車の駅の販売強化に向けた店舗レイアウトの見直し （5/24：事前ヒアリング、6/7：第1回、6/24：第2回、7/5：第3回、8/10：第4回） <p>○各社の基盤強化と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジTENGUへ向けた食材供給体制の整備 ・星ふるヴィレッジTENGU土産ショップへ満天の星コーナーを設置 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町製品の販売力のさらなる強化 ⇒町内介護施設へ向けた食材供給体制の整備の協議

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとセンターの方向性の見直し ⇒6次産業化サポートセンター（経営コンサルタント）による経営戦略の策定支援 ・直販農家等、生産者の維持、確保 ⇒地域おこし協力隊の募集、農業アドバイザーの配置による助言・指導 ⇒食品衛生法の改正に伴う直販農家、生産者支援(営業許可、届出制度、HACCP対応)
<p>■No. 25 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備（四万十町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川 <p>※地域産業クラスター関連（四万十のうまい豚クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>豚まん等販売額</p> <p>出発点（H30）：9,300万円</p> <p>直近値（R2）：1,3億円</p> <p>到達目標（R3）：1.9億円</p> <p>目標（R5）：2.33億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>豚まん等販売額（R3.7月末）：3,293万円 (対前年同期比：108.7%)</p> <p>○加工施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧加工場（スイーツ加工場）の高知県版HACCP第3ステージ認証取得への取組（保健所との協議他） ・アイスの発送用としてドライアイスを製造する機器の購入を検討（高知県食品産業総合支援事業費補助金） <p>○商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川との定例会（月1回） ・商談会等への参加：3回（4～7月） ・無添加・新パッケージの豚まん販売開始（5月～） ・新型コロナウイルス感染拡大による「創業祭」、「あぐりでひんやり夏祭り」の中止 ⇒特設ブースを設ける等して「創業フェア」、「あぐりでひんやり夏フェア」として実施 ・自社サイト上のオンラインショップ（R2改修済）での販売 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額の増加 ⇒定例会での定期的な状況確認及び支援策の検討 ・旧加工場の衛生管理の強化 ⇒高知県版HACCP第3ステージ認証取得

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の入込数の減 <p>R3年4月～6月の入込数：55,044人 (対R元年同期比：66.2%)</p> <p>⇒中止となったイベントの代替策としてフェアを実施</p>
<p>■No. 26 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>・(株)ぶらうん</p>	<p>[指標]</p> <p>加工品売上高</p> <p>出発点 (H30)：5,210万円</p> <p>直近値 (R2)：7,635万円</p> <p>到達目標 (R3)：1,1億円</p> <p>目標 (R5)：1,27億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>加工品売上高 (R3.7月末)：</p> <p>2,456万円 (対前年同期比：109.2%)</p> <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発：1品(茶碗蒸し(低価格帯のみ)) ・新商品開発に関するセミナー受講等 貿易に関するWEB講義の受講(4月～7月：3回) <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高須店閉店(7/25) →フジグラン野市店内にて新店オープン(8/18予定) ・商談会等：5回(4～7月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品の安定生産及び販売体制の強化 ⇒新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した製造機器の強化(申請準備中) ⇒高知県版HACCP第3ステージ認証取得(第2ステージの認証はR元取得済)
<p>■No. 28 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・OUCHI企画(同)</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (R2)：300万円</p> <p>直近値 (R2)：300万円</p> <p>到達目標 (R3)：1,500万円</p> <p>目標 (R5)：1,500万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R3.8月末)：100万円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○販促、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)を活用したHP、リーフレット等の作成、新規顧客の開拓に向けたTURNS商店への出店 ・国際雑貨EXPOへの出店(大阪:9/29~10/1) <p>○新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置型サウナ、タイニーハウスの試作 ・端材を活用した商品の開発 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サウナ、タイニーハウスの対候性の評価及び検証 ⇒関係機関、大学等との連携を検討 ・樽の自社製造に向けた取り組み ⇒樽内製化に向けた製造方法の研究
<p>■No. 29 四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十うなぎ(株) 	<p>[指標]</p> <p>販売額</p> <p>出発点(R2見込):9億円</p> <p>到達目標(R3):9億円</p> <p>目標(R5):11,2億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>○加工施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設敷地の確保 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場建設用地の農地転用に係る手続きの遅れ ⇒融資情報の提供や着実な農地転用に向けた支援 ・海外輸出も見据えた加工場の衛生管理の強化 ⇒「HACCP認証取得」に向けた支援
<p>■No. 30 高幡地域における広域観光の推進(高幡地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・奥四万十観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数</p> <p>出発点(H30):2,306,990人</p> <p>直近値(R2):1,558,089人</p> <p>到達目標(R3):2,519,234人</p> <p>目標(R5):2,646,000人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>・四万十町</p>	<p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 出発点 (H30) : 56,441人 直近値 (R2) : 38,779人 到達目標 (R3) : 61,634人 目標 (R5) : 64,000人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数(R3.6月末) : 383,168人(対前年同期比 : 177.0%) (対R元年同期比 : 59.2%)</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 (R3.6月末) : 8,563人 (対前年同期比 : 337.7%) (対R元年同期比 : 56.7%)</p> <p>※(1)(2)とも、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により入込数が大幅に落ち込んでおり、本年度は、通常営業を再開したため、入込数が一定回復したことによる増加</p> <p>○観光情報の発信 ・HP等による奥四万十エリアの観光情報の発信</p> <p>○地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売 ・訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業へ幡多広域観光協議会との共同参画による体験型コンテンツ等の磨き上げ (コンテンツ検討会 : 6/28) (モニターツアー : 7/13~7/16)</p> <p>○広域観光組織の機能強化 ・奥四万十観光協議会担当者部会 (4/22) ・奥四万十観光協議会推進部会 (5/20) ・広域観光協議会担当者会への参加 (5/27) ・奥四万十観光協議会観光情報交換会 (6/16) ・土佐の観光創生塾への参加 (6/23、7/6) (県の地域商品造成等の事業の活用) ・滞在型観光プランの作成 (県の観光地域づくり体制強化事業の活用) ・奥四万十観光協議会理事会 (8/2)</p> <p>[課題と今後の対応] ・奥四万十観光協議会の組織のあり方に関する今後の方向性</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>⇒来年度まで、高幡広域市町村圏事務組合からの費用を充てることにより、事業を実施する。エリア内5市町、観光協会、商工会、観光事業者等と広域観光組織の必要性や令和5年度以降の予算について継続的な審議が必要。</p> <p>・魅力ある観光資源の発掘、磨き上げ及び情報発信等 ⇒担当者部会と連動した体験プログラムの精査、磨き上げ、HP・SNS更新頻度の向上</p>
<p>■No. 31 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化(須崎市)</p> <p>《実施主体》 ◎・須崎市</p> <p>※地域産業クラスター関連(宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>交流人口 出発点 (H30) : 20,836人 直近値 (R2) : 8,201人 到達目標 (R3) : 23,000人 目標 (R5) : 24,000人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>交流人口 (R3.8月末) : 4,877人(対前年同期比 : 213.2%) (対R元年同期比 : 44.8%)</p> <p>※昨年は施設の休館や、部活動等各種活動が中止されたため</p> <p>○東京五輪チェコ共和国カヌー・ボートチーム事前合宿の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行ったうえでの応援会 ・合宿施設の立ち入り禁止等感染症対策の実施 <p>○新型コロナウイルス感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消毒液、仕切り板や検温機器の手配 ・コモドウラノウチの一部制限開催 <p>○大会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本水泳連盟国際主要大会代表者選考大会となったすさきOWS2021の開催検討および感染症対策(実行委員会2回(4月、7月)) ・感染症対策における管轄保健所及び所管する県スポーツ課との相談協議 <p>○周辺観光施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県観光施設等緊急整備事業の活用による屋外体験型施設整備、鳴無神社および坂内カヌー場棧橋の受け入れ体制強化(7月交付決定)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿利用者の宿泊場所不足及び飲食提供体制の構築 ⇒昨年度整備した研修棟での宿泊は、コロナ対策により客室の定員に関わらず個室利用での運営となることから、宿泊場所の不足について引き続き検討を行う。飲食提供の方法等について引き続き協議を行う。 周辺連携の検討会の実施 ⇒感染症の状況や新たに近隣地に整備予定である野外体験施設との連携も視野に協議を行う。
<p>■No. 35 梶原町の体験型・滞在型観光の推進(梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・梶原町商工会</p> <ul style="list-style-type: none"> 梶原町 松原まろうど会 坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会 	<p>[指標]</p> <p>(1) 宿泊者数</p> <p>出発点 (H30) : 8,285人</p> <p>直近値 (R2) : 7,999人</p> <p>到達目標 (R3) : 4,000人</p> <p>目標 (R5) : 9,000人</p> <p>(2) 施設利用者数</p> <p>出発点 (H30) : 96,236人</p> <p>直近値 (R2) : 62,337人</p> <p>到達目標 (R3) : 90,000人</p> <p>目標 (R5) : 105,000人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 宿泊者数 (R3.6月末) : 1,868人 (対前年同期比 : 483%)</p> <p>(2) 施設利用者数 (R3.6月末) : 15,950人 (対前年同期比 : 392%)</p> <p>※昨年4月8日～6月11日まで新型コロナウイルス感染拡大防止対策により休館したため増加している (ホテル・温泉・プール) (対R元年同期比 : 65%)</p> <p>○体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「(一社) ゆすはら雲の上観光協会」設立 (R3.4月) 隈研吾の建築物を活かした町歩きツアーの実施 (R3.6月末111人) <p>○誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘客のための情報や映像の発信 隈研吾オリジナル土産の販売 <p>○森林セラピー受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録ガイドの育成

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・久保谷森林セラピー等梶原町の森林資源を活かしたイベントの開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入基盤の整備 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ホテル・レストランのリニューアル ⇒道の駅の機能強化による太郎川公園の整備 ⇒隈研吾の建築物を活かした町歩きツアー等のガイドの育成
<p>■No. 36 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p> <p>《実施主体》 ◎・津野町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要宿泊施設 年間宿泊数 出発点 (H30) : 10,950人 直近値 (R2) : 4,695人 到達目標 (R3) : 13,342人 目標 (R5) : 14,000人</p> <p>(2) 主要観光施設 入込者数 出発点 (H30) : 261,094人 直近値 (R2) : 229,966人 到達目標 (R3) : 289,438人 目標 (R5) : 300,000人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要宿泊施設 年間宿泊数 (R3.7月末) : 1,769人 (対前年同期比 : 220.3%) (対R元年同期比 : 43.9%)</p> <p>(2) 主要観光施設 入込者数 (R3.7月末) : 87,517人 (対前年同期比 : 160.2%) (対R元年同期比 : 98.5%)</p> <p>※(1)(2)ともに星ふるヴィレッジTENGUリニューアルオープンによる増</p> <p>○受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野ぶらHPを随時更新 ・観光ガイド「てっぺん四万十風の会」町内研修実施 (7/1) <p>○観光商品の造成と周遊促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おんぱく手法を活用した津野町体験キャンペーン「第2回つっねづね」の実施予定(16プログラム、R3.8～9月)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・星降るヴィレッジTENGUリニューアル記念「星を観る侍天文学者 片岡直次郎展」の実施(7/7～8/31吉村虎太郎生家、9/6～10/31片岡兄弟生家) ・ツノトック定期周遊の実施。 ・津野町デジタルスタンプラリー「津野スタ」の実施(R3.6～R4.1) <p>○観光拠点整備と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せいらの里リニューアル施設整備完了(5月完成) ・遊山四万十 せいらの里リニューアルオープン(7/12落成神事・内覧、7/21オープン) <p>○情報発信と誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報の実施(テレビCM、ラジオ、SNS、HP、YouTube、ほっとこうち他) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十エリアへの周遊促進 ⇒体験メニューや観光ガイドを活用した町内周遊プランの造成と情報発信
<p>■No. 37 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト(津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一財)天狗荘 	<p>[指標]</p> <p>(1)天狗荘の年間宿泊数 出発点(H30): 7,646人 直近値(R2): 2,750人 到達目標(R3): 9,900人 目標(R5): 11,000人</p> <p>(2)四国カルストの入込者数 出発点(H30): 75,012人 直近値(R2): 42,656人 到達目標(R3): 98,000人 目標(R5): 110,000人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)天狗荘の年間宿泊数(R3.7月末): 1,000人(対前年同期比: 12.3%)</p> <p>(2)四国カルストの入込者数(R3.7月末): 20,366人(対前年同期比: 222.8%)</p> <p>※(1)(2)ともに改修工事に伴う天狗荘休館(R2.9月末～R3.7.6)のため</p> <p>○観光拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「星ふるヴィレッジTENGU」落成式典開催(6/25)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・「星ふるヴィレッジTENGU」 グランドオープン (7/7) ・カルスト学習館リニューアル工事 (県自然共生課 R3.6月～R4.3月) <p>○受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GW中の四国カルストエリアの渋滞対策について愛媛県久万高原町と情報共有 ・人材確保・人材育成 地域おこし企業人 ((株) 五藤光学研究所) の受入 地域おこし企業人によるプラネタリウムの施設運営アドバイス <p>○観光商品の造成と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし企業人によるプラネタリウム映像撮影の講習実施 <p>○情報発信と誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天狗星空コミュニティ (天狗星空会) の参加募集 (5月) ・地域おこし企業人によるプラネタリウムでの星の学習 (R3.7月、町内の小学校) ・地域おこし企業人による親子星空観察会の開催 (R3.8月) →コロナのため延期。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルオープン後のソフト面強化によるサービスの向上 ⇒従業員マナー講座、人材育成等 ⇒津野町グルメや全天候型の観光素材、体験メニューの造成 ⇒誘客のための効果的なプロモーションの実施 ⇒町内への波及、周遊促進のための受入体制の整備 (観光組織、観光ガイド等の確保・育成) ・人材の確保 ⇒R3星空観察スペシャリスト養成講座 (県実施) の天狗荘開催に向けた協議 ・受入体制の強化と磨き上げ ⇒Eバイク整備予定 (12月) ・四国カルストエリア全体の広域連携 ⇒周辺自治体 (久万高原町、梶原町、西予市、内子町) との連携会議の実施 ⇒カルスト学習館等の県有施設との連携、道路標識の見直し

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 38 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[指標]</p> <p>ホビー館年間入場客数</p> <p>出発点 (H30) : 2.7万人</p> <p>直近値 (R2) : 2.1万人</p> <p>到達目標 (R3) : 5万人</p> <p>目標 (R5) : 5万人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>ホビー館年間入場客数 (R3. 8月末) : 13,833名 (対前年同期比 : 152.3%)</p> <p>※昨年は4/11～5/31まで休館 (対R元年同期比 : 65.1%)</p> <p>○海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランス、物販・休憩スペース等改修 (R3. 10月～R4. 3月改修予定) <p>○ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋堂ウルトラマンフィギュア展の開催 (R3. 7/22～R4. 5/30) <p>○関係機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラッピング列車の運行 海洋堂ホビートレイン『ウルトラトレイン号』 (R3. 7/22～R4. 5) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり (滞在時間の延長) ⇒休憩スペースにおける飲食物の検討、地域との連携体制の構築 ・集客力のある企画展・町周遊企画 (スタンプラリー) の開催 ⇒ウルトラマンAR・ポストカードラリーの開催 (R3. 7/22～R4. 5/30)
<p>■No. 41 ジップラインと道の駅を核とした四万十町(十和地区)の観光拠点整備事業(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅四万十とおわ 	<p>[指標]</p> <p>(1) 道の駅「四万十とおわ」入込客数</p> <p>出発点 (H30) : 8.5万人</p> <p>直近値 (R2) : 8.0万人</p> <p>到達目標 (R3) : 12万人</p> <p>目標 (R5) : 12万人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(2) ジップライン利用者数 出発点 (H30) : — 直近値 (R2) : 1万920人 到達目標 (R3) : 1万人 目標 (R5) : 1.2万人</p> <p>(3) ジップライン売上高 出発点 (H30) : — 直近値 (R2) : 2,499万円 到達目標 (R3) : 1,782万円 目標 (R5) : 2,200万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)道の駅「四万十とおわ」入込客数(R3.8月末) : 37,083人(対前年同期比 : 108%) ※昨年は4/21～5/6まで休業 (対R元年同期比 : 79%)</p> <p>(2)ジップライン利用者数 (R3.8月末) : 4,095人</p> <p>(3)ジップライン売上高 (R3.8月末) : 954万円</p> <p>○道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅四万十とおわ連絡会議の開催 (月1回) ・十和地域観光推進協議会と連携した体験プログラムの検討 : 3回(4/26、6/4) ・お土産商品の開発 : サブレ (8月) <p>○四万十川ジップラインの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジップライン定例会 (5月、6月) ・新規スタッフの確保 (2名) ・公式HP開設 (5月) ・Instagramフォトコンテストの開催 (4月～9月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」の入込客数の減少 ⇒ジップラインや周辺観光施設との連携による集客強化 ・十和地域内の観光施設間の連携強化 ⇒研修(観光プログラム策定他)等支援事業活用の提案 ・四万十川ジップラインの魅力発信 ⇒川船の魅力、動画撮影サービス内容の広報

2 令和3年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 28 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト ※ステップアップ事業 7月2日交付決定	販促ツールの製作、レーザー加工機による新商品開発	2,076千円 (1,038千円)

3 県民参画に向けた取組

- ・土佐MBAなど各種講習会の受講周知

4 相談案件：1件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/30	食品加工	野見湾で水産加工場を整備したい。

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、19のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況		
高橋	農業	No.13 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト	次世代施設園芸団地で栽培されているトマトの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、加工品の販売促進や輸出の検討を行い、次世代団地の経営強化を図る。	これまでの取り組み（H28～R2）	次世代施設園芸団地での生果販売向けのトマトの生産拡大に向けた適正な栽培管理を実施した。また、トマトカレーやトマトビュレの開発、販売を行った。	
		関連する地域AP No.9 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト		R3年度の取り組み	【取り組み状況】 トマトの生産拡大に向けた病害虫対策の確立と適正な栽培管理に特化した取組を実施した。OEM先が製造を中止したことやコストや生産性の面から加工品を製造することを断念した。 【課題と今後の対応】 新たな品種のトマト生産にもアプローチをしており、生産拡大に向けた病害虫対策や適正な栽培管理に継続して取り組む。	
		No.14 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。	これまでの取り組み（H28～R2）	既存畜舎の補改修等生産体制の構築に取り組み、平野畜産が四国初の養豚農場 HACCP認証を取得した。また、四万十ポークのブランド化に向けて、関係者でワークショップを開催し、地域団体商標登録を目指す等ブランド化の具体的な方法を決定した。道の駅あくり窪川では、増産のための豚まん加工場が新設された。	
	関連する地域AP No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト No.25 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備	R3年度の取り組み		【取り組み状況】 生産拡大に向けて、四国デュロックファーム（R3着工予定）と渡辺畜産（R4着工予定）について、畜舎整備に関する住民説明会を行い承諾を得る。畜舎整備による増頭計画をシミュレーション中。生産効率の向上のための衛生対策の徹底。また、「四万十ポーク」のブランド化に向けてロゴデザインを募集し、シールとして商品へのブランドマークの貼付を開始した。 【課題と今後の対応】 増頭に向けた畜舎の整備及び四万十ポークブランドを活用した販路拡大と、取り組みの見える化を図って収益の向上を目指す。		
	高橋	農業	No.15 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト	北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、新改植を進めるとともに、低樹高栽培の普及や労働力補充の仕組みづくり等により生産拡大を図る。また、2次加工施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。	これまでの取り組み（H28～R2）	生産量の増大に向け、新改植の推進や低樹高剪定技術の普及に取り組んだ。また、十和道の駅の「おちゃくりカフェ」での新商品の開発・販売支援を行うとともに、ペースト工場の建設や高品質ペースト機器の導入を支援した。
			関連する地域AP No.6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト		R3年度の取り組み	【取り組み状況】 栗の安定生産に向けた巡回指導等を行った。また、栗を利用した加工品を製造する設備の増強を図る「しまんと地栗工場」が5月に竣工した。 【課題と今後の対応】 栗園の管理不足による生産量減少を改善するための剪定指導の強化。新工場での加工品の増産及び高知県産HACCP新第3ステージの認証取得を支援
No.16 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト			J A 土佐くろしお管内（須崎市・中土佐町・津野町）で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種茎の安定供給体制を構築する。また、日本一の「ミョウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指す。	これまでの取り組み（H28～R2）	(R3年度新規)	
関連する地域AP No.1 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	R3年度の取り組み	【取り組み状況】 ミョウガの生産拡大のためのヤシガラ培地活用施設(ストックヤード) 建設が始まった。また、収量、品質の向上に向け栽培講習会、試験圃の設置等により前年同月比104%（2,269t、6月末）の出荷量となっている。 【課題と今後の対応】 ミョウガ料理メニュー化の検討、ミョウガの新たな使い方提案等地域事業者等への消費拡大PRを行う。				
水産業	水産業	No.12 宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト	うるめいわし、あさり、ブランド真鯛の水産資源を活用した加工業や、ホエールウォッシング、釣り筏などの遊漁、周辺の宿泊施設等が連携してクラスターの形成を図る。	これまでの取り組み（H28～R2）	アサリ、ウルメイワシ等の生産量等の確保に向け資源保護活動等を実施した。また、地域食材等を活用した加工品及び弁当の開発、体験メニュー設定、磨上げ等を実施した。	
		関連する地域AP No.31 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化 No.32 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備		R3年度の取り組み	【取り組み状況】 新型コロナウイルスの影響により、民泊の受入れができなかった。加えて、高齢化により民泊の受入れに対する機運が低下している。宇佐地区では、少人数でのまちあるきガイドや、10月から開催する体験博へのプログラム参加など、観光客の受入を行っている。 【課題と今後の対応】 須崎市と土佐市の観光協会による体験メニューの磨き上げ、教育旅行や団体旅行の誘致に向けた取り組みの推進。民泊受入れ家庭の高齢化や新規受入世帯の確保。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた民泊開業意向調査と募集方法の検討。	